

# 経済マンスリー

## [日本]

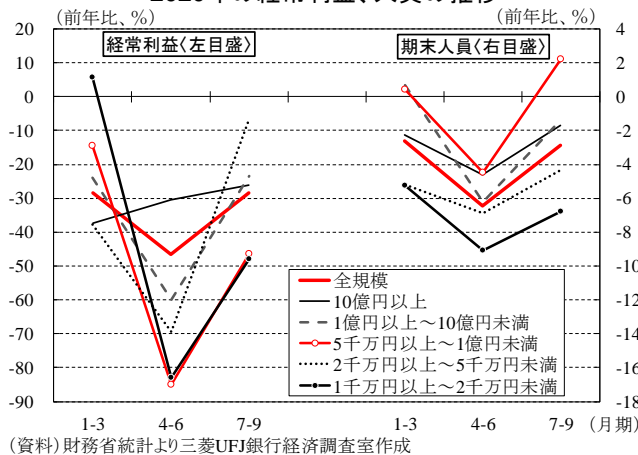
### コロナ禍影響が続く中、企業は自社の成長に向けた果敢な取り組みも肝要

7-9月期の非金融法人企業の経常利益(全規模・全産業ベース)は前年比▲28.4%と、4-6月期の同▲46.6%からはマイナス幅が縮小したものの、3四半期連続で大幅な減益となった。背景には、コロナ禍を受けて導入された公衆衛生措置が一部残っていたことや、感染拡大抑止が求められるため企業・家計の消費・投資行動が正常化しない(できない)ことなどを受け、需要がコロナ禍前の水準に戻り切らなかったことがあるだろう。

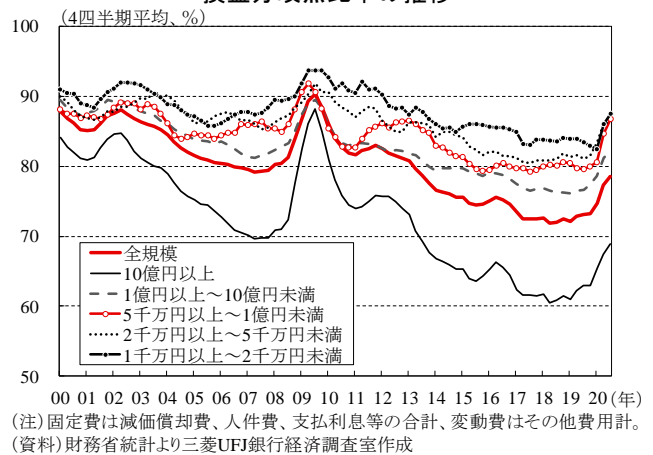
『経常利益』について資本金規模別に細かくみると、規模が小さい企業の落ち込みが特に目立っており、さらに業績悪化の雇用への影響をみると資本金5千万円未満の企業において『期末人員』が大幅に減少していることが確認される(第1図)。経営環境悪化の業績への影響を少しでも食い止めるため、固定費の大部分を占める人件費の削減に動いたものとみられるが、足元の損益分岐点比率をみると中小企業も含め上昇し続けており、既往の固定費削減が業績改善の決定打とはなっていないことが示唆される(第2図)。こうした環境下では、人員最適化を更に推し進めて減収への耐性を強化することも企業の取れる1つの手段だが、中小企業の中には少人数経営の企業も多く、将来的な需要回復を視野に入れた場合、大胆な雇用調整に踏み切ることはそう簡単なことではないと考えられる。

先行き、対面型サービスなど一部の業種では、需要がコロナ禍前の水準に暫くは戻らないとみられるなか、コロナ禍を受けて悪化した企業業績・財務体質の回復には想定以上に時間がかかることもあろう。そうした中、今月閣議決定された経済対策では中小企業等の経営転換や事業再構築等への財政支援が盛り込まれたほか、来年度の税制改正に向けては、M&Aや設備投資、雇用継続に関する税制を含む大綱が与党内で纏められるなど、我が国が長年抱える人手不足や生産性の向上といった課題の解決に資する政策の整備が進んでいる。マクロの金融・財政支援政策が続く中でも、企業はこうした枠組みの活用を含め、生産性向上や事業力強化といった自社の成長に向けたミクロの変革に取り組む必要があるだろう。

第1図: 資本金規模別にみた非金融法人企業の2020年の経常利益、人員の推移



第2図: 資本金規模別にみた非金融法人企業の損益分岐点比率の推移



主要経済金融指標(日本)  
2020年12月25日時点

経済調査室(Economic Research Office)

1. 実体経済

(特記なき限り前期(月)比、( )内は前年比%、[ ]内は前年実績)

	2018年度	2019年度	2020年			2020年				
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	7月	8月	9月	10月	11月
実質GDP成長率(前期比年率)	0.3	▲ 0.3	▲ 2.1 (▲ 2.0)	▲ 29.2 (▲ 10.3)	22.9 (▲ 5.7)	***	***	***	***	***
鉱工業生産指数	0.3	▲ 3.8	0.4 (▲ 4.5)	▲ 16.9 (▲ 19.8)	8.7 (▲ 12.8)	8.7 (▲ 15.5)	1.0 (▲ 13.8)	3.9 (▲ 9.0)	4.0 (▲ 3.0)	
鉱工業出荷指数	0.2	▲ 3.6	▲ 0.6 (▲ 5.2)	▲ 16.8 (▲ 19.9)	9.1 (▲ 13.5)	6.6 (▲ 16.6)	1.5 (▲ 14.2)	3.9 (▲ 9.8)	4.9 (▲ 3.0)	
製品在庫指数	0.2	2.9	2.3 (2.9)	▲ 5.3 (▲ 3.4)	▲ 3.3 (▲ 5.7)	▲ 1.5 (▲ 4.8)	▲ 1.3 (▲ 5.9)	▲ 0.5 (▲ 5.7)	▲ 1.8 (▲ 8.1)	
生産者製品在庫率指数 (2015年=100)	105.0	112.3	116.5 [105.9]	141.7 [107.3]	122.2 [109.3]	125.7 [108.5]	123.2 [110.7]	117.8 [108.8]	113.9 [113.1]	[115.0]
第3次産業活動指数	1.1	▲ 0.7	▲ 1.1 (▲ 2.8)	▲ 10.1 (▲ 13.0)	6.2 (▲ 8.6)	0.1 (▲ 8.9)	0.8 (▲ 8.5)	2.3 (▲ 8.6)	1.0 (▲ 1.9)	
国内企業物価指数	2.2	0.1	▲ 0.4 (0.5)	▲ 2.4 (▲ 2.3)	0.9 (▲ 0.8)	0.6 (▲ 0.9)	0.1 (▲ 0.6)	▲ 0.2 (▲ 0.8)	▲ 0.2 (▲ 2.1)	0.0 (▲ 2.2)
消費者物価 (季調済、全国、除く生鮮食品)	0.8	0.6	▲ 0.2 (0.6)	▲ 0.3 (▲ 0.1)	▲ 0.2 (▲ 0.2)	0.1 (0.0)	▲ 0.4 (▲ 0.4)	0.1 (▲ 0.3)	▲ 0.2 (▲ 0.7)	▲ 0.1 (▲ 0.9)
稼働率指数 (2015年=100)	102.5	98.3	95.1 [101.6]	75.2 [102.1]	85.6 [100.2]	82.2 [101.8]	84.6 [99.3]	90.0 [99.5]	95.4 [96.3]	[95.6]
機械受注 (船舶、電力を除く民需)	2.8	▲ 0.3	▲ 0.7 (▲ 1.0)	▲ 12.9 (▲ 19.1)	▲ 0.1 (▲ 14.1)	6.3 (▲ 16.2)	0.2 (▲ 15.2)	▲ 4.4 (▲ 11.5)	17.1 (2.8)	
製造業	3.8	▲ 8.1	1.8 (▲ 3.4)	▲ 16.6 (▲ 19.9)	3.0 (▲ 15.0)	5.0 (▲ 19.0)	▲ 0.6 (▲ 13.2)	2.0 (▲ 12.7)	11.4 (1.1)	
非製造業 (除く船舶、電力)	2.1	6.2	▲ 5.1 (0.6)	▲ 9.7 (▲ 18.4)	▲ 2.5 (▲ 13.4)	3.4 (▲ 14.3)	▲ 6.9 (▲ 16.6)	3.2 (▲ 10.7)	13.8 (4.3)	
資本財出荷 (除く輸送機械)	▲ 0.2	▲ 5.5	▲ 0.4 (▲ 5.7)	▲ 8.4 (▲ 12.7)	▲ 4.6 (▲ 19.8)	▲ 1.0 (▲ 14.4)	▲ 8.3 (▲ 21.4)	2.7 (▲ 22.8)	13.4 (▲ 1.8)	
建設受注	6.5	▲ 5.9	(▲ 11.8)	(▲ 11.7)	(▲ 6.8)	(▲ 22.9)	(28.5)	(▲ 10.6)	(▲ 0.1)	(▲ 4.7)
民需	14.5	▲ 8.7	(▲ 18.2)	(▲ 20.6)	(▲ 10.2)	(▲ 31.6)	(45.9)	(▲ 17.0)	(▲ 12.4)	(2.0)
官公庁	▲ 15.0	▲ 3.2	(1.5)	(21.1)	(24.4)	(37.7)	(4.5)	(28.2)	(64.7)	(10.2)
公共工事請負金額	1.1	6.8	(7.1)	(3.4)	(7.5)	(▲ 4.1)	(13.2)	(17.1)	(▲ 0.4)	(▲ 3.3)
新設住宅着工戸数(年率万戸)	95.3 (0.7)	88.4 (▲ 7.3)	86.3 (▲ 10.0)	80.0 (▲ 12.4)	82.1 (▲ 10.1)	82.8 (▲ 11.3)	81.9 (▲ 9.1)	81.5 (▲ 9.9)	80.2 (▲ 8.3)	82.0 (▲ 3.7)
新設住宅床面積	(1.0)	(▲ 4.5)	(▲ 10.2)	(▲ 13.8)	(▲ 13.1)	(▲ 15.6)	(▲ 14.6)	(▲ 9.2)	(▲ 10.2)	(▲ 4.7)
小売業販売額	1.6	▲ 0.4	(▲ 1.3)	(▲ 9.3)	(▲ 4.5)	(▲ 2.9)	(▲ 1.9)	(▲ 8.7)	(6.4)	(0.7)
実質家計消費支出 (2人以上、季調済)	0.0	▲ 0.4	▲ 2.3 (▲ 3.5)	▲ 4.5 (▲ 9.8)	3.6 (▲ 8.3)	▲ 6.5 (▲ 7.6)	1.7 (▲ 6.9)	3.8 (▲ 10.2)	2.1 (1.9)	
平均消費性向 (実数、季調済、%)	69.2	66.9	64.8 [69.9]	54.8 [66.9]	62.7 [71.8]	56.6 [70.8]	64.0 [70.4]	67.9 [74.2]	66.8 [65.8]	[67.6]
所定外労働時間 (全産業・5人以上)	▲ 1.7	▲ 2.5	▲ 1.9 (▲ 4.1)	▲ 21.0 (▲ 24.4)	12.3 (▲ 14.6)	9.7 (▲ 16.2)	1.5 (▲ 14.1)	1.5 (▲ 13.4)	2.4 (▲ 11.1)	
現金給与総額 (全産業・5人以上)	0.9	0.0	(0.7)	(▲ 1.7)	(▲ 1.2)	(▲ 1.5)	(▲ 1.3)	(▲ 0.9)	(▲ 0.7)	
常用雇用者数(前年差) (全産業・5人以上、万人)	1	96	93	43	35	35	41	28	35	
有効求人倍率 (実数、季調済、倍)	1.62	1.55	1.44 [1.63]	1.21 [1.62]	1.05 [1.59]	1.08 [1.59]	1.04 [1.59]	1.03 [1.58]	1.04 [1.58]	1.06 [1.57]
完全失業率 (実数、季調済、%)	2.4	2.4	2.4	2.8	3.0	2.9	3.0	3.0	3.1	2.9
景気ウォッチャー(現状判断DI) (季調済、%ポイント)	47.8	38.7	27.8 [46.0]	20.7 [44.5]	44.8 [43.8]	41.1 [41.6]	43.9 [43.1]	49.3 [46.6]	54.5 [36.9]	45.6 [38.8]
企業倒産件数 (実数、件数)	8,110 (▲ 3.1)	8,631 (6.4)	2,164 (12.9)	1,837 (▲ 11.4)	2,021 (▲ 7.4)	789 (▲ 1.6)	667 (▲ 1.6)	565 (▲ 19.5)	624 (▲ 20.0)	569 (▲ 21.7)

## 2. 国際収支

(特記なき限り前期(月)比、( )内は前年比、[ ]内は前年実績)

	2018年度	2019年度	2020年			2020年				
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	7月	8月	9月	10月	11月
通関輸出	1.9	▲6.0	(▲5.5)	(▲25.3)	(▲13.0)	(▲19.2)	(▲14.8)	(▲4.9)	(▲0.2)	(▲4.2)
価格	2.5	▲1.7	(▲0.0)	(▲0.3)	(2.3)	(3.5)	(0.1)	(3.0)	(1.5)	(▲0.2)
数量	▲0.6	▲4.4	(▲5.5)	(▲25.1)	(▲14.9)	(▲21.9)	(▲14.9)	(▲7.7)	(▲1.6)	(▲4.0)
通関輸入	7.2	▲6.3	(▲7.2)	(▲16.0)	(▲20.1)	(▲22.3)	(▲20.7)	(▲17.4)	(▲13.2)	(▲11.1)
価格	5.7	▲3.9	(▲0.3)	(▲11.8)	(▲9.9)	(▲9.6)	(▲10.3)	(▲9.7)	(▲8.0)	(▲9.0)
数量	1.4	▲2.4	(▲7.0)	(▲4.8)	(▲11.4)	(▲14.0)	(▲11.6)	(▲8.4)	(▲5.7)	(▲2.4)
経常収支(億円)	195,916	201,408	58,016	14,162	52,739	14,992	21,145	16,602	21,447	
貿易収支(億円)	6,341	6,665	5,031	▲14,594	14,689	1,373	4,132	9,184	9,711	
サービス収支(億円)	▲9,342	▲4,777	▲2,908	▲13,625	▲9,035	▲3,495	▲3,166	▲2,374	▲3,846	
金融収支(億円)	214,222	225,587	67,983	20,372	46,240	21,403	5,718	19,120	8,605	
外貨準備高(百万ドル)	1,291,813	1,366,177	1,366,177	1,383,164	1,389,779	1,402,475	1,398,516	1,389,779	1,384,372	1,384,615
対ドル円レート(期中平均)	110.88	108.68	108.86	107.60	106.19	106.78	106.04	105.74	105.24	104.40

## 3. 金融

	2018年度	2019年度	2020年			2020年				
			1-3月期	4-6月期	7-9月期	7月	8月	9月	10月	11月
無担保コール翌日物金利	▲0.062	▲0.046	▲0.032 [▲0.054]	▲0.044 [▲0.060]	▲0.039 [▲0.059]	▲0.028 [▲0.071]	▲0.035 [▲0.046]	▲0.054 [▲0.059]	▲0.020 [▲0.022]	▲0.032 [▲0.043]
ユーロ円TIBOR (3ヵ月物)	0.062	0.026	0.016 [0.037]	▲0.041 [0.049]	▲0.062 [0.022]	▲0.065 [0.049]	▲0.065 [0.009]	▲0.055 [0.009]	▲0.055 [0.009]	▲0.055 [0.018]
新発10年国債利回り	▲0.095	0.005	0.005 [▲0.095]	0.030 [▲0.165]	0.015 [▲0.215]	0.010 [▲0.160]	0.045 [▲0.280]	0.015 [▲0.215]	0.040 [▲0.150]	0.030 [▲0.080]
都銀貸出約定平均金利 (前期、月比増減)	0.751	0.720	0.720 (▲0.009)	0.668 (▲0.052)	0.673 (0.005)	0.668 (0.000)	0.670 (0.002)	0.673 (0.003)	0.677 (0.004)	
日経平均株価 (225種、末値)	21,206	18,917	18,917 [21,206]	22,288 [21,276]	23,185 [21,756]	21,710 [21,522]	23,140 [20,704]	23,185 [21,756]	22,977 [22,927]	26,434 [23,294]
M2平残	(2.7)	(2.6)	(3.0)	(5.3)	(8.5)	(7.9)	(8.6)	(9.0)	(9.0)	(9.1)
広義流動性平残	(1.9)	(2.2)	(2.8)	(3.3)	(5.2)	(4.7)	(5.3)	(5.6)	(5.5)	(5.4)
貸出・預金動向										
貸出残高 (平残)	銀行・信金計	(2.2)	(2.1)	(1.9)	(4.7)	(6.5)	(6.4)	(6.7)	(6.4)	(6.3)
	銀行計	(2.2)	(2.2)	(2.1)	(4.9)	(6.4)	(6.4)	(6.6)	(6.2)	(6.0)
	都銀等	(1.0)	(2.0)	(1.8)	(6.3)	(7.7)	(7.9)	(8.0)	(7.3)	(6.9)
	地銀	(4.3)	(4.5)	(4.3)	(3.7)	(5.0)	(4.9)	(5.0)	(5.0)	(4.8)
	地銀II	(▲0.4)	(▲5.9)	(▲5.5)	(4.2)	(6.7)	(6.4)	(6.9)	(6.9)	(7.0)
信金	(2.1)	(1.1)	(1.0)	(2.9)	(7.1)	(6.2)	(7.3)	(7.8)	(8.0)	(8.3)
実質預金 +CD (平残)	3業態計	(3.4)	(2.6)	(3.0)	(6.1)	(8.7)	(8.3)	(8.8)	(9.1)	(9.0)
	都銀	(4.9)	(3.6)	(3.9)	(8.1)	(10.3)	(10.1)	(10.5)	(10.4)	(9.9)
	地銀	(2.7)	(3.4)	(3.7)	(4.1)	(7.0)	(6.5)	(7.0)	(7.6)	(8.0)
地銀II	(▲1.3)	(▲5.5)	(▲5.1)	(3.1)	(6.8)	(5.9)	(6.9)	(7.5)	(7.9)	(8.1)

(注) 新発10年国債利回り、都銀貸出約定平均金利は末値、その他金利は期中平均値。

(資料) 内閣府、経済産業省、財務省、総務省、厚生労働省、国土交通省、日本銀行、東京商工リサーチ、保証事業協会統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱UFJ銀行 経済調査室 芥子 和史 kazufumi\_keshi@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。